

表4 職位と関連ある項目**

行動特性	
I-12	既存の保健活動やモデル事業を通して改善点を把握している
II-3	プライバシー尊重への保障内容・方法(通知方法、場所など)を決めている
-9	特定健診・特定保健指導の実施にあたり必要な人材の見極めをしている
-10	特定健診・特定保健指導の実施に必要な人材・関係者を集め、会議を開催し、制度を理解してもらうための教育・説明をしている
III-1	保健指導者の保健指導を評価できる。または、評価できるツールを開発している
IV-6	社外教育・社内教育を取り入れた教育プログラムを構築している
-7	OJTの教育体制を整えている
-8	新規採用者（非常勤スタッフを含む）の指導・教育を行う体制や研修プログラムを作成し実施している
-11	保健指導者の質の確保ができる教育プログラムを構築でき、プログラムの見直しを行っている

(**P<0.05)

表 5 実行度・重要度とともに平均値を上回る項目

行動特性	
I-1	対象から得られた情報（健診・問診データ）を基にデータベースを作成している
-9	日頃の保健活動より、対象者の健診・保健指導に対する要望・健康に関する情報（健康意識・生活背景など）について情報収集している
II-3	プライバシー尊重への保障内容・方法（通知方法、場所など）を決めている
-4	保健指導のプログラム、実行プロセス、結果評価を企画している
-5	厚生行政・財源等についての最新の情報を持ち続けている
-8	日頃から組織内外関係者との関係づくりができ、コミュニケーションを行っている
-11	特定健診・特定保健指導に関する最新の情報を積極的に得ている
III-2	現実的で達成可能な健診受診率、保健指導実施率、メタボリックシンドロームの改善率を設定している
-3	健診受診率、保健指導実施率、メタボリックシンドロームの改善率を評価している
IV-3	保健指導実践に必要な技術（カウンセリング・コーチングなど）について研修を実施している
-15	専門職として業務・役割の範囲を明確にしている
-16	専門職として技術（コミュニケーション技術など）・能力（アセスメント・問題解決など）の範囲を明確にしている
VII-1	健診・問診データ、年齢、性別、自覚症状、既往歴・現病歴・家族歴について情報収集している
-2	家庭環境（家族など）、職場状況（職種・仕事時間など）、健康観（健康への興味・健康行動など）、生活状況（趣味・仲間・悩み・大切にしていることなど）を情報収集している
-3	基準値を理解し、個人史・健康歴から健診データと生活習慣との関連をアセスメントしている
-4	分かりやすい言葉で健診結果を説明している
-5	健康診断結果を用いて、将来の病気の可能性・リスクについて分かりやすい言葉で説明している
-6	明確にされた健康問題を対象者に適切に説明している
-7	データや計画を伝える際、秘密を守り、対象者の尊厳とプライバシーを保ちつつ、法律にもとづくケア記録を提供している

-8	日頃の健康支援活動から見守り・声かけしている
-9	対象者、保健師関係の良好な関係が保てない場合、速やかな対応ができる協力体制を作っている
-10	基本的なマナーで挨拶ができ、保健指導の目的を説明している
-11	対象者の健康について、関心があり心配している気持ちを伝えることができ、支援者として熱意ある態度で接している
-12	対象者とともに達成可能なゴールを設定・計画し、長期的な視点で継続的に支援している
-13	健診結果に個別のコメントを記載し、対象者にとって有益な情報を提供している
-14	対象者の要望に対しては誠実に対応し改善を行っている
-15	保健指導者自身の健康状態を良好に保っている
-16	対象者の準備状態や動機付け、ゴールの再設定、最適な成果について繰り返しアセスメントしている
-17	対象者が生活習慣改善の必要性を理解し、行動目標を決定するために必要な知識・理解力を査定している
-18	根拠をもって、保健指導の優先順位（緊急性・タイミング・実行可能性など）を決定している
-19	スタッフ間において、適切な用語、書式、技術を用いて対象者の健康状態を伝えている
-21	積極的傾聴法（受容・共感・自己一致）を用いて、対象者の話を聞いている
-22	対象者に実行可能で具体的な生活習慣改善目標を設定している
-23	相手の要望を聞きながら、受け入れやすい選択肢を示している
-24	良くなっていることは褒めるなど、必要時フィードバックを行い、自己効力感に働きかけている
-25	対象者自らが、家族や職場など周囲の協力を得られるように支援している
-26	所定の時間以内で保健指導を実施している
-27	絵やグラフなどを用いて分かりやすい指導教材を作成している
-30	最新の情報を収集し、対象者の知識・理解力・興味や生活習慣への取り組みなどに合わせて、随時教材を更新し改善している

表6 あまり実行されず重要ではない行動項目

行動特性	
I-3	問診データ（生活習慣・自覚症状・既往歴・現病歴など）より、リスクの比率を算出している
-4	医療費データを統計ソフトを用いて分析している
-5	健診・問診・医療費データより情報の関連性を査定している
-6	対象集団のデータを年齢階層別・地域内（県・市町村・校区）・事業所内の特性に基づいて分析している
-10	市町村や事業所の健康管理に関する方針・予算計画・要望について理解している
-13	国・県・その他政令市、その他市町村・その他事業所等の統計データを用いて比較し、優先課題を抽出している
-14	他の保健指導者（管理栄養士・健康運動指導士など）の意見を聞いて優先課題・順位を決定している
-17	対象者の健診・保健指導に関する動向・要望、市町村や事業所の健康管理に関する方針・予算計画・要望に合った優先順位を決定している
II-6	保健指導プログラムの計画、開発、実施において地域公衆衛生の専門家の支援を得ている
-9	特定健診・特定保健指導の実施にあたり必要な人材の見極めをしている
-10	特定健診・特定保健指導の実施に必要な人材・関係者を集め、会議を開催し、制度を理解してもらうための教育・説明をしている
-14	関係者の役割・業務内容・業務の流れについて調整している
-17	当該市町村・事業所に適切な委託機関と連携している（事業所・市町村の方のみ回答）
-20	既存の社会資源を把握し、活用できる体制を整備している
-21	当該市町村・事業所に必要な社会資源を開発している
-23	仕事量とマンパワーの査定を行い、優先課題・順位について、再度検討を行っている
III-5	評価結果に基づき、保健指導などの保健事業計画を改善している
-6	保健指導にかかったコスト（人件費、教材など）を評価している
-7	顧客へ保健指導結果をフィードバックしている
-8	委託先機関へ評価をフィードバックしている
-9	モデル地区・事業所から改善を行い、改善事例を基に他地区・事業所の改善を行っている

IV-6	社外教育・社内教育を取り入れた教育プログラムを構築している
-7	OJTの教育体制を整えている
-9	新規採用者（非常勤スタッフを含む）の保健指導レベルを段階的に判断できる基準と方法を持っている
-11	保健指導者の質の確保ができる教育プログラムを構築でき、プログラムの見直しを行っている
-12	グループダイナミクスを用いた保健指導を行っている
-17	質の改善に向けて関係法規・制度の改善を政策提言している
-18	専門分野以外の知識（組織論・経営学など）を保健指導の質の確保に活用している
V-1	プログラムの評価結果に基づき、常に新しい知見や情報を取り入れている
-2	定期的にプログラムの改善と開発を行っている
-3	保健指導に関する研究や質の向上の取り組みを学会や雑誌に発表し、次のプログラムの開発に取り入れている
VI-2	適切に業務が行われているかモニタリングしている
VII-20	学習効果を強化するような支援プログラムを作っている（フィードバックや、練習・強化・支持を組み込んだ）
-31	保健指導者だけではなく、一般の人の意見を聞き、教材を開発している
-32	周辺地域の医療機関・健康増進施設・その他健康支援相談施設などの病院の情報整理を行っている
-33	必要時に適切な他の専門家や機関（病院、スポーツクラブ、料理教室など）と協力している

表7 実行度が低く重要度の高い項目

【共通項目】

行動特性	
II-15	プログラム実行のための財源を確保している
-16	これまでの実績や利益・損益のバランスを考え、特定保健指導料金を設定している
IV-4	質の確保のために必要な事例収集を行い、プロセスレコードの振り返り事例検討会を行っている
-13	ポピュレーションアプローチの企画・立案・実施を行っている
VI-1	費用効果が高く、結果の出る事業者を選択している

【5年未満】

行動特性	
I-2	健診データを統計ソフトを用いて分析し、受診率・有所見率・有病率を算出している
-7	対象集団のデータを個別・集団の経年的なデータの推移に基づいて分析している
-10	市町村や事業所の健康管理に関する方針・予算計画・要望について理解している
-15	保健指導者のマンパワーを関して実施可能な対象者数を算出している
-16	緊急性・重大性・簡易性・コストパフォーマンスを考え、優先順位を決定している
II-18	既存の保健活動やモデル事業を通して改善点を把握し、より良い特定健診・特定保健指導プログラムに修正している
III-3	健診受診率、保健指導実施率、メタボリックシンドロームの改善率を評価している
VII-13	健診結果に個別のコメントを記載し、対象者にとって有益な情報を提供している
-20	学習効果を強化するような支援プログラムを作っている
-27	絵やグラフなどを用いて分かりやすい指導教材を作成している
-28	対象者の自発性や主体性を引き出せる教材を作成している

【5年以上】

行動特性	
IV-8	新規採用者の指導・教育を行う体制や研修プログラムを作成し実施している
-11	保健指導者の質の確保ができる教育プログラムを構築でき、プログラムの見直しを行っている
V-2	定期的にプログラムの改善と開発を行っている

表 8

		重要度					
		0 全 く 不 要	1 や や 重 要	2 と て も 重 要	3 非 常 に 重 要	無 回 答	計
1 生活習慣病に関する知識	(人)	0	2	10	33	4	49
	(%)	0.0	4.1	20.4	67.3	8.2	100
2 メタボリックシンドロームに関する知識	(人)	0	4	8	33	4	49
	(%)	0.0	8.2	16.3	67.3	8.2	100
3 保健信念モデルに関する行動変容理論	(人)	0	7	18	20	4	49
	(%)	0.0	14.3	36.7	40.8	8.2	100
4 自己効力感に関する行動変容理論	(人)	0	4	18	23	4	49
	(%)	0.0	8.2	36.7	46.9	8.2	100
5 ステージモデルに関する行動変容理論	(人)	0	7	16	20	6	49
	(%)	0.0	14.3	32.7	40.8	12.2	100
6 計画的行動理論に関する行動変容理論	(人)	0	5	22	16	6	49
	(%)	0.0	10.2	44.9	32.7	12.2	100
7 運動生理学に関する知識	(人)	0	7	23	15	4	49
	(%)	0.0	14.3	46.9	30.6	8.2	100
8 スポーツ医科学に関する知識	(人)	0	11	22	12	4	49
	(%)	0.0	22.4	44.9	24.5	8.2	100
9 体力測定・評価に関する知識	(人)	2	14	24	5	4	49
	(%)	4.1	28.6	49.0	10.2	8.2	100
10 栄養学に関する知識	(人)	0	2	15	28	4	49
	(%)	0.0	4.1	30.6	57.1	8.2	100
11 心理学に関する知識	(人)	0	5	18	22	4	49
	(%)	0.0	10.2	36.7	44.9	8.2	100
12 社会学に関する知識	(人)	0	10.2	36.7	44.9	8.2	100
	(%)	0.0	10.2	36.7	44.9	8.2	100
13 組織論に関する知識	(人)	1	13	20	11	4	49
	(%)	2.0	26.5	40.8	22.4	8.2	99.9
14 経営学に関する知識	(人)	1	15	21	8	4	49

	(%)	2.0	30.6	42.9	16.3	8.2	100
15 カウンセリング技術	(人)	0	1	16	28	4	49
	(%)	0.0	2.0	32.7	57.1	8.2	100
16 コーチング技術	(人)	0	2	14	29	4	49
	(%)	0.0	4.1	28.6	59.2	8.2	100
17 コミュニケーション技術	(人)	0	1	9	34	5	49
	(%)	0.0	2.0	18.4	69.4	10.2	100
18 ティーチング技術	(人)	0	6	13	26	4	49
	(%)	0.0	12.2	26.5	53.1	8.2	100
19 グループワークを支援する技術	(人)	0	3	15	26	5	49
	(%)	0.0	6.1	30.6	53.1	10.2	100
20 文書指導技術	(人)	0	6	19	20	4	49
	(%)	0.0	12.2	38.8	40.8	8.2	100
その他							
メンタルヘルス（うつ病、睡眠障害）の知識					1		1
睡眠時無呼吸症候群					1		1
労働衛生、産業保健の視野（働く人を理解する為に）					1		1
行動療法全般に関する知識					1		1

表9 必要な研修ガイド案

経験年数	研修項目
【5年未満】	<p>基本研修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・データ分析研修（PCを使った実践的演習、 経年的データの分析・有病率・有所見率の算出方法等） ・教材の作成研修
【5年以上】	<p>管理研修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・育成支援研修（新人教育の方法・研修プログラムの作成 等） ・保健指導プログラムの改善方法（品質管理システムガイドライン・マニュアルテンプレートを使った改善法）
【共通】	<ul style="list-style-type: none"> ・お金に関する研修（予算の考え方・コストパフォーマンス 等） ・グループダイナミクスとポピュレーションアプローチ研修 ・保健指導の振り返り研修（事例検討会・プロセスレコード 等）

特定健診・特定保健指導における

保健指導実践者のコンピテンシー調査

特定健診・特定保健指導においては数値目標が明示され、効率的で効果的な事業の企画・立案・評価と行動変容に結びつく保健指導が求められています。また、保健指導実践者は、一定の基準を満たし、保健指導に関する知識・技能を有していることが必須の要件となると考えます。

本調査は、特定健診・特定保健指導における目標達成に必要な保健師のコンピテンシー（能力に関する行動特性）を明らかにすることを目的としたパイロット調査です。この調査より、調査項目や内容の精査を行い、その上で対象を広げて本調査を行います。さらに、得られた結果より保健指導の質を確保するために必要な教育ガイドの作成を行う予定です。

調査の対象者は、保健指導実践者です。アンケートは無記名ですので、皆様の会社名やお名前をご記入いただく必要はありません。結果はコンピュータで統計的に処理しますので、個人の特定や個人の行動を明らかにするものではありません。

アンケートの記入は、強制ではありません。また、答えたくない項目を空欄にすることや、記入を行わないことによって、皆様が不利益を被ることはありません。この調査終了後にはアンケート結果は全てシュレッダーにかけ、廃棄処分を致します。また、記録媒体（CD 等）に保存して残すことも致しません。皆様のアンケート結果をこの調査以外の目的で使用することはありません。アンケートの結果をお知りになられたい方は、下記連絡先へご連絡下さい。

アンケートの趣旨をご理解の上、ご参加お願い致します。

* この調査につきまして、ご不明な点やお尋ねになりたいことがありましたら、下記へご連絡下さい。

お問い合わせ先

〒807-8555 北九州市八幡西区医生ヶ丘 1-1

電話: 093-691-7160 E-mail:j-3kango@mbox.health.uoeh-u.ac.jp

産業医科大学 産業・地域看護学講座

研究責任者: 石原 逸子

共同研究者: 飯野 直子, 亀ヶ谷 律子, 中谷 淳子, 原 善子

* このアンケート調査は、厚生労働科学研究『特定保健指導のアウトソーシング先に対する「保健指導の質の評価ガイド」を利用した質の管理・促進に関する研究』（主任研究者 産業医科大学副学長 森晃爾）の助成を受けて実施しています。

I. あなた自身に関すること

次の質問にお答え下さい。あてはまるものに○印、また記入をお願いします。

1) 性別をお答え下さい。

1. 男 2. 女

2) 年齢をお書き下さい。

歳

3) 婚姻の状況について、お答え下さい。

1. 未婚 2. 既婚 3. その他()

4) あなたがお持ちの資格についてお答え下さい。

1. 准看護師 2. 正看護師 3. 保健師 4. 助産師 5. 衛生管理者
6. ケアマネージャー 7. 労働衛生コンサルタント 8. その他()

5) あなたの最終学歴についてお答え下さい。

1. 高校卒業 2. 専門学校卒業 3. 短期大学卒業
4. 大学卒業 5. 大学院修士卒業 6. 大学院博士卒業

6) 以下のそれぞれに従事した年数をお答え下さい。

(育児・介護休暇など1年以上の長期休暇は除外して下さい)。

① 産業看護職以外の看護職として

年

② 現在の所属機関に勤務して

年

③ 現在の職位について

年

7)あなたの勤務する所属先についてお答え下さい。

1. 企業 2. 単一健保 3. 総合健保 4. 労働衛生機関
5. 健診機関 6. 病院 7. 官公庁 8. その他()

8)現在の雇用形態についてお答え下さい。

1. 正規雇用 2. 非正規雇用(パート、アルバイト) 3. 人材派遣会社からの派遣
4. その他(フリー、自営など)()

9)現在の職位に該当する職位をお答え下さい。

*特に役職がない場合は、一般社員に○をお付けください。

1. 部長相当 2. 課長相当 3. 係長相当 4. 主任相当
5. 一般社員相当 6. その他()

10)あなたが担当する保健指導対象者についてお答え下さい。

1. 50名未満 2. 50~299名 3. 300~499名 4. 500~999名
5. 1000名~2999名 6. 3000名以上

11)あなたの所属する産業保健チームの人数についてお答え下さい。

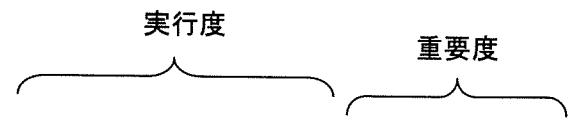
1. 保健師()名 2. 看護師()名 3. 准看護師()名
4. 専属産業医()名 5. 嘱託産業医()名
6. 産業医以外の医師()名 7. 衛生管理者()名
8. 安全担当者()名 9. リスクマネージャー()名
10. 管理栄養士()名 11. 栄養士()名
12. 健康運動指導士()名 13. その他()()名

II. 特定健診・特定保健指導に関すること

A. 下記の項目は、特定健診・特定保健指導を実施するにあたり必要な行動の項目です。

特定健診・特定保健指導を実施するにあたり、あなた自身が各項目の行動についてどの程度実行したか、実行度を6段階で評価して下さい。また、実行の有無に関わらず、あなた自身が各項目の行動についてどの程度重要と考えるのか、重要度について4段階で評価して下さい。

		実行度						重要度			
		行う場面がない／担当業務ではない	全く行っていない／不十分である	あまり行っていない／やや不十分である	ある程度行っている	十分に行っている	申し分なく行っている	全く重要ではない	やや重要である	とても重要である	非常に重要である
1	対象から得られた情報(健診・問診データ)を基にデータベースを作成している	0	1	2	3	4	5	0	1	2	3
2	健診データを統計ソフト(EXCEL、SPSSなど)を用いて分析し、受診率・有所見率・有病率を算出している	0	1	2	3	4	5	0	1	2	3
3	問診データ(生活習慣・自覚症状・既往歴・現病歴など)より、リスクの比率を算出している	0	1	2	3	4	5	0	1	2	3
4	医療費データを統計ソフトを用いて分析している	0	1	2	3	4	5	0	1	2	3
5	健診・問診・医療費データより情報の関連性を査定している	0	1	2	3	4	5	0	1	2	3
6	対象集団のデータを年齢階層別・地域内(県・市町村・校区)・事業所内の特性に基づいて分析している	0	1	2	3	4	5	0	1	2	3
7	対象集団のデータを個別・集団の経年的なデータの推移に基づいて分析している	0	1	2	3	4	5	0	1	2	3
8	特定保健指導の階層化の基準に沿って対象者を選別している	0	1	2	3	4	5	0	1	2	3
9	日頃の保健活動より、対象者の健診・保健指導に対する要望・健康に関する情報(健康意識・生活背景など)について情報収集している	0	1	2	3	4	5	0	1	2	3
10	市町村や事業所の健康管理に関する方針・予算計画・要望について理解している	0	1	2	3	4	5	0	1	2	3



	行う場面がない／担当業務ではない	全く行っていない／不十分である	あまり行っていない／やや不十分である	ある程度行っている	十分に行っている	申し分なく行っている	全く重要なではない	やや重要である	とても重要である	非常に重要である
--	------------------	-----------------	--------------------	-----------	----------	------------	-----------	---------	----------	----------

11	施設内外で活用できる資源(人的・物的・情報など)について情報収集している	0	1	2	3	4	5	0	1	2	3
12	既存の保健活動やモデル事業を通して改善点を把握している	0	1	2	3	4	5	0	1	2	3
13	国・県・その他政令市、その他市町村・その他事業所等の統計データを用いて比較し、優先課題を抽出している	0	1	2	3	4	5	0	1	2	3
14	他の保健指導者(管理栄養士・健康運動指導士など)の意見を聞いて優先課題・順位を決定している	0	1	2	3	4	5	0	1	2	3
15	保健指導者のマンパワーを勘案して実施可能な対象者数を算出している	0	1	2	3	4	5	0	1	2	3
16	緊急性・重大性・簡易性・コストパフォーマンスを考え、優先順位を決定している	0	1	2	3	4	5	0	1	2	3
17	対象者の健診・保健指導に関する動向・要望、市町村や事業所の健康管理に関する方針・予算計画・要望に合った優先順位を決定している	0	1	2	3	4	5	0	1	2	3

2) 以下の 23 項目は「健診・保健指導の企画・調整」に関する質問です。実行度・重要度について、最もあてはまるものに○をつけて下さい。

1	対象者からの問い合わせや苦情を受ける窓口を設け、対応できる体制を整えている	0	1	2	3	4	5	0	1	2	3
2	責任の範囲内で、組織の機能と資源を管理している	0	1	2	3	4	5	0	1	2	3
3	プライバシー尊重への保障内容・方法(通知方法、場所など)を決めている	0	1	2	3	4	5	0	1	2	3
4	保健指導のプログラム、実行プロセス、結果評価を企画している	0	1	2	3	4	5	0	1	2	3
5	厚生行政・財源等についての最新の情報を持ち続けている	0	1	2	3	4	5	0	1	2	3

		実行度						重要度			
		行う場面がない／担当業務ではない	全く行っていない／不十分である	あまり行っていない／やや不十分である	程度行っている	十分に行っている	申し分なく行っている	全く重要なではない	やや重要である	とても重要である	非常に重要である
6	保健指導プログラムの計画、開発、実施において地域公衆衛生の専門家の支援を得ている	0	1	2	3	4	5	0	1	2	3
7	特定健診・特定保健指導の制度(社会的背景・目的・意義・方法など)の理解に努めている	0	1	2	3	4	5	0	1	2	3
8	日頃から組織内外関係者との関係づくりができ、コミュニケーションを行っている	0	1	2	3	4	5	0	1	2	3
9	特定健診・特定保健指導の実施にあたり必要な人材の見極めをしている(営業・検査・SE 担当者、産業医・医師会、国保係・介護保険係・健康係、委託先、栄養士・トレーナー等)	0	1	2	3	4	5	0	1	2	3
10	特定健診・特定保健指導の実施に必要な人材・関係者を集め、会議を開催し、制度を理解してもらうための教育・説明をしている	0	1	2	3	4	5	0	1	2	3
11	特定健診・特定保健指導に関する最新の情報を積極的に得ている	0	1	2	3	4	5	0	1	2	3
12	獲得した情報を様々な媒体(メール・パンフレットなど)を通じて関係者へ伝えている	0	1	2	3	4	5	0	1	2	3
13	関係者間の情報を共有化している	0	1	2	3	4	5	0	1	2	3
14	関係者の役割・業務内容・業務の流れについて調整している	0	1	2	3	4	5	0	1	2	3
15	プログラム実行のための財源を確保している	0	1	2	3	4	5	0	1	2	3
16	これまでの実績や利益・損益のバランスを考え、特定保健指導料金の設定をしている(労働衛生機関の方のみ回答)	0	1	2	3	4	5	0	1	2	3
17	当該市町村・事業所に適切な委託機関と連携している(事業所・市町村の方のみ回答)	0	1	2	3	4	5	0	1	2	3
18	既存の保健活動やモデル事業を通して改善点を把握し、より良い特定健診・特定保健指導プログラムに修正している	0	1	2	3	4	5	0	1	2	3

実行度

重要度

	全く行っていない／担当業務ではない	全く行っていない／不十分である	あまり行っていない／やや不十分である	ある程度行っている	十分に行っている	申し分なく行っている	全く重要なではない	やや重要である	とても重要である	非常に重要なである
--	-------------------	-----------------	--------------------	-----------	----------	------------	-----------	---------	----------	-----------

20	既存の社会資源を把握し、活用できる体制を整備している	0	1	2	3	4	5	0	1	2	3
21	当該市町村・事業所に必要な社会資源を開発している	0	1	2	3	4	5	0	1	2	3
22	特定健診・特定保健指導に必要な分かりやすいマニュアルの作成している	0	1	2	3	4	5	0	1	2	3
23	仕事量とマンパワーの査定を行い、優先課題・順位について、再度検討を行っている	0	1	2	3	4	5	0	1	2	3

3) 以下の9項目は「評価」に関する質問です。実行度・重要度について、最もあてはまる回答に○をつけて下さい。

1	保健指導者の保健指導を評価できる。または、評価できるツールを開発している	0	1	2	3	4	5	0	1	2	3
2	現実的で達成可能な健診受診率、保健指導実施率、メタボリックシンドロームの改善率を設定している	0	1	2	3	4	5	0	1	2	3
3	健診受診率、保健指導実施率、メタボリックシンドロームの改善率を評価している	0	1	2	3	4	5	0	1	2	3
4	プロセス評価(対象者の満足度、実際の場面、記録、継続率など)ができるような計画・行動目標を設定している	0	1	2	3	4	5	0	1	2	3
5	評価結果に基づき、保健指導などの保健事業計画を改善している	0	1	2	3	4	5	0	1	2	3
6	保健指導にかかったコスト(人件費、教材など)を評価している	0	1	2	3	4	5	0	1	2	3
7	顧客へ保健指導結果をフィードバックしている	0	1	2	3	4	5	0	1	2	3
8	委託先機関へ評価をフィードバックしている	0	1	2	3	4	5	0	1	2	3
9	モデル地区・事業所から改善を行い、改善事例を基に他地区・事業所の改善を行っている	0	1	2	3	4	5	0	1	2	3

	実行度						重要度			
	行う場面がない／担当業務ではない	全く行っていない／不十分である	あまり行っていない／やや不十分である	ある程度行っている	十分に行っている	申し分なく行っている	全く重要なではない	やや重要である	とても重要である	非常に重要である
1 組織で決めた標準的なルール(物品の取扱・情報管理など)を守っている	0	1	2	3	4	5	0	1	2	3
2 保健指導プログラムに規定された保健指導の実践の基準(挨拶・教材・記録など)を守っている	0	1	2	3	4	5	0	1	2	3
3 保健指導実践に必要な技術(カウンセリング・コーチングなど)について研修を実施している	0	1	2	3	4	5	0	1	2	3
4 質の確保のために必要な事例収集を行い、プロセスレコードの振り返り・事例検討会を行っている	0	1	2	3	4	5	0	1	2	3
5 保健指導研修にロールプレイを取り入れている	0	1	2	3	4	5	0	1	2	3
6 社外教育・社内教育を取り入れた教育プログラムを構築している	0	1	2	3	4	5	0	1	2	3
7 OJTの教育体制を整えている	0	1	2	3	4	5	0	1	2	3
8 新規採用者(非常勤スタッフを含む)の指導・教育を行う体制や研修プログラムを作成し実施している	0	1	2	3	4	5	0	1	2	3
9 新規採用者(非常勤スタッフを含む)の保健指導レベルを段階的に判断できる基準と方法を持っていている	0	1	2	3	4	5	0	1	2	3
10 保健指導の質を改善するために研究・最新の知見についてモニターし、取り入れている	0	1	2	3	4	5	0	1	2	3
11 保健指導者の質の確保ができる教育プログラムを構築でき、プログラムの見直しを行っている	0	1	2	3	4	5	0	1	2	3
12 グループダイナミクスを用いた保健指導を行っている	0	1	2	3	4	5	0	1	2	3
13 ポピュレーションアプローチの企画・立案・実施を行っている	0	1	2	3	4	5	0	1	2	3
14 自己の保健指導の実践の質をモニタリングしている	0	1	2	3	4	5	0	1	2	3
15 専門職として業務・役割の範囲を明確にしている	0	1	2	3	4	5	0	1	2	3
16 専門職として技術(コミュニケーション技術など)・能力(アセスメント・問題解決など)の範囲を明確にしている	0	1	2	3	4	5	0	1	2	3

4)以下の18項目は「保健指導の質の確保」に関する質問です。実行度・重要度について、最もあてはまる回答に○をつけて下さい。

		実行度					重要度				
		行う場面がない／担当業務ではない	全く行っていない／不十分である	あまり行っていない／やや不十分である	ある程度行っている	十分に行っている	申し分なく行っている	全く重要ではない	やや重要である	とても重要である	非常に重要である
17	質の改善に向けて関係法規・制度の改善を政策提言している	0	1	2	3	4	5	0	1	2	3
18	専門分野以外の知識(組織論・経営学など)を保健指導の質の確保に活用している	0	1	2	3	4	5	0	1	2	3

5)以下の3項目は「保健指導プログラムを開発」に関する質問

です。実行度・重要度について、最もあてはまる回答に○をつけて下さい。

1	プログラムの評価結果に基づき、常に新しい知見や情報を取り入れている	0 1 2 3 4 5	0 1 2 3
2	定期的にプログラムの改善と開発を行っている	0 1 2 3 4 5	0 1 2 3
3	保健指導に関する研究や質の向上の取り組みを学会や雑誌に発表し、次のプログラムの開発に取り入れている	0 1 2 3 4 5	0 1 2 3

6)以下の2項目は「保健指導の委託」に関する質問です。実

行度・重要度について、最もあてはまる回答に○をつけて下さい。

1	費用対効果が高く、結果の出る事業者を選択している(アクセス、費用、効率、質等を考慮する)	0 1 2 3 4 5	0 1 2 3
2	適切に業務が行われているかモニタリングしている	0 1 2 3 4 5	0 1 2 3

7)以下の34項目は「健診・保健指導」に関する質問です。実

行度・重要度について、最もあてはまる回答に○をつけて下さい。

1	健診・問診データ、年齢、性別、自覚症状、既往歴・現病歴・家族歴について情報収集している	0 1 2 3 4 5	0 1 2 3
2	家庭環境(家族など)、職場状況(職種・仕事時間など)、健康観(健康への興味・健康行動など)、生活状況(趣味・仲間・悩み・大切にしていることなど)を情報収集している	0 1 2 3 4 5	0 1 2 3

			実行度						重要度			
			全く行つていない／担当業務ではない	全く行つっていない／不十分である	あまり行ついない／やや不十分である	ある程度行つている	十分に行つている	申し分なく行つている	全く重要ではない	やや重要である	とても重要である	非常に重要である
3	基準値を理解し、個人史・健康歴から健診データと生活習慣との関連をアセスメントしている		0	1	2	3	4	5	0	1	2	3
4	分かりやすい言葉で健診結果を説明している		0	1	2	3	4	5	0	1	2	3
5	健診結果を用いて、将来の病気の可能性・リスクについて分かりやすい言葉で説明している		0	1	2	3	4	5	0	1	2	3
6	明確にされた健康問題を対象者に適切に説明している		0	1	2	3	4	5	0	1	2	3
7	データや計画を伝える際、秘密を守り、対象者の尊厳とプライバシーを保ちつつ、法律にもとづくケア記録を提供している		0	1	2	3	4	5	0	1	2	3
8	日頃の健康支援活動から見守り・声かけしている		0	1	2	3	4	5	0	1	2	3
9	対象者、保健師関係の良好な関係が保てない場合、速やかな対応ができる協力体制を作っている		0	1	2	3	4	5	0	1	2	3
10	基本的なマナーで挨拶ができ、保健指導の目的を説明している		0	1	2	3	4	5	0	1	2	3
11	対象者の健康について、関心があり心配している気持ちを伝えることができ、支援者として熱意ある態度で接している		0	1	2	3	4	5	0	1	2	3
12	対象者とともに達成可能なゴールを設定・計画し、長期的な視点で継続的に支援している		0	1	2	3	4	5	0	1	2	3
13	健診結果に個別のコメントを記載し、対象者にとって有益な情報を提供している		0	1	2	3	4	5	0	1	2	3
14	対象者の要望に対しては誠実に対応し改善を行っている		0	1	2	3	4	5	0	1	2	3
15	保健指導者自身の健康状態を良好に保っている		0	1	2	3	4	5	0	1	2	3
16	対象者の準備状態や動機付け、ゴールの再設定、最適な成果について繰り返しアセスメントしている		0	1	2	3	4	5	0	1	2	3
17	対象者が生活習慣改善の必要性を理解し、行動目標を決定するために必要な知識・理解力を査定している		0	1	2	3	4	5	0	1	2	3

	実行度	実行度					重要度				
		行う場面がない／担当業務ではない	全く行っていない／不十分である	あまり行っていない／やや不十分である	ある程度行っている	十分に行っている	申し分なく行っている	全く重要ではない	やや重要である	とても重要である	非常に重要である
18	根拠をもって、保健指導の優先順位(緊急性・タイミング・実行可能性など)を決定している	0	1	2	3	4	5	0	1	2	3
19	スタッフ間において、適切な用語、書式、技術を用いて対象者の健康状態を伝えている	0	1	2	3	4	5	0	1	2	3
20	学習効果を強化するような支援プログラムを作っている(フィードバックや、練習・強化・支持を組み込んだ)	0	1	2	3	4	5	0	1	2	3
21	積極的傾聴法(受容・共感・自己一致)を用いて、対象者の話を聞いている	0	1	2	3	4	5	0	1	2	3
22	対象者に実行可能で具体的な生活習慣改善目標を設定している	0	1	2	3	4	5	0	1	2	3
23	相手の要望を聞きながら、受け入れやすい選択肢を示している	0	1	2	3	4	5	0	1	2	3
24	良くなっていることは褒めるなど、必要時フィードバックを行い、自己効力感に働きかけている	0	1	2	3	4	5	0	1	2	3
25	対象者自らが、家族や職場など周囲の協力を得られるように支援している	0	1	2	3	4	5	0	1	2	3
26	所定の時間以内で保健指導を実施している	0	1	2	3	4	5	0	1	2	3
27	絵やグラフなどを用いて分かりやすい指導教材を作成している	0	1	2	3	4	5	0	1	2	3
28	対象者の自発性や主体性を引き出せる教材を作成している	0	1	2	3	4	5	0	1	2	3
29	既存の教材や市販されている教材(ソフト・パンフレット・本)を組み合わせ、対象者に合わせた教材を開発している	0	1	2	3	4	5	0	1	2	3
30	最新の情報を収集し、対象者の知識・理解力・興味や生活習慣への取り組みなどに合わせて、随時教材を更新し改善している	0	1	2	3	4	5	0	1	2	3
31	保健指導者だけではなく、一般の人の意見を聞き、教材を開発している	0	1	2	3	4	5	0	1	2	3

	実行度	実行度					重要度				
		行う場面がない／担当業務ではない	全く行っていない／不十分である	あまり行っていない／やや不十分である	程度行っている	十分に行っている	申し分なく行っている	全く重要ではない	やや重要である	とても重要である	非常に重要である
32	周辺地域の医療機関・健康増進施設・その他健康支援相談施設などの病院の情報整理を行っている	0	1	2	3	4	5	0	1	2	3
33	必要時に適切な他の専門家や機関(病院、スポーツクラブ、料理教室など)と協力している	0	1	2	3	4	5	0	1	2	3
34	保健指導に必要な資源(施設、教材、ツール、スタッフ、資金)を活用している	0	1	2	3	4	5	0	1	2	3